



群馬県コンクール 金賞

## とくべつなしょくじの時間

太田市立太田小学校 2年 橋本 果歩

いつもおうちでごはんを食べる時は、にぎやかだ。学校でその日なにがあったかほうこく。たのしかった話。おいしかったきゅうしょくの話。おばあちゃんがつくったおいしいごはんを食べながらいろんな話をする。

ある日おばあちゃんがコロナになった。うつらないように、おばあちゃんとおかあさんとべつべつのくらしになった。ごはんも、かってきたおべんとうや、パンになってしまった。おいしくないわけではないけど、何かちがった。いっしょに食べる人ずうもすくなくなったので、さみしい気持ちでいっぱいだ。おばあちゃんがつくったマーボーナスがたべたいな。ナスの上にあまいおみそがのっているのがたべたいな。

コロナがはやっている間、学校でもきゅうしょくの時間はもくしょくといって、ほかのともだちと話をしないでたべなければいけなかった。今は、まわりのともだちと、すこし話をしながらたべてもよくなった。

「このおかずおいしいね。」

「お昼休み、何してあそぶ？」

など、いろいろな話をする。前のシーンとしていた時とちがって、ちょっとにぎやかになってたのしい。きゅうしょくも、みんなとにこにこ話をしながらたべたほうが、おいしいきゅうしょくがもっとおいしく感じる。

おばあちゃんがよくなったら、プールのバタフライのテストで合かくした話や、そだてていたトマトが赤くなってしゅうかくした話とか、ほうこくしたいことがたくさんある。はやくたのしいごはんの時間がもどってきてほしいな。

わたしにとって、ごはんを食べる時間は、手づくりのおいしいごはんを食べながら、たくさんお話をしてにこにこ元気になれる、とくべつな時間だ。